

2020年3月期決算説明

2020年5月28日
日本ケミコン株式会社

● 2019年度業績概要

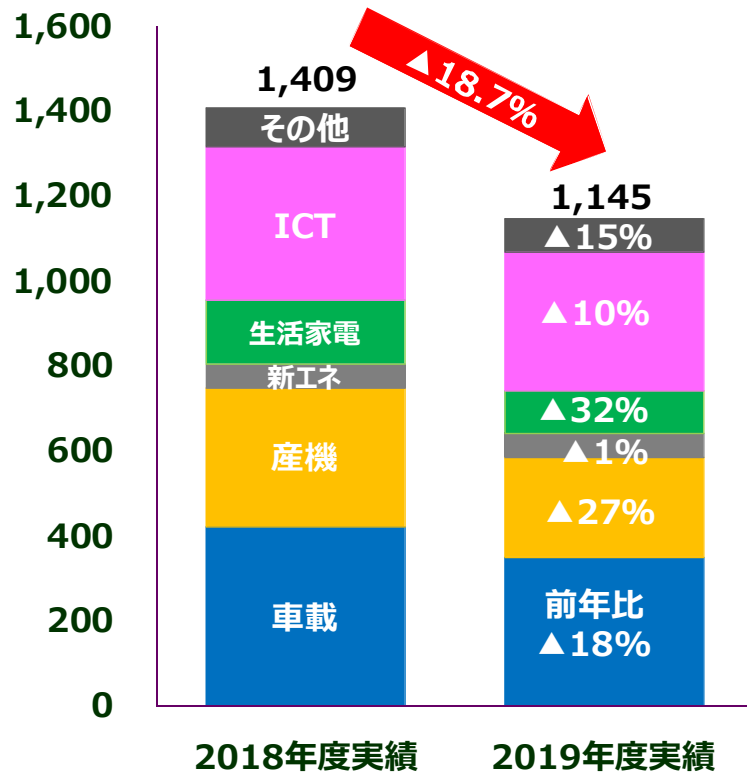
単位：億円

	2018年度実績	2019年度実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	1,409.5	1,145.9	△263.6	△18.7
営業利益	51.3	△28.9	△80.2	—
売上高比率	3.6%	△2.5%	△6.1pt	—
親会社株主に帰属する当期利益	9.1	△59.2	△68.3	—
売上高比率	0.7%	△5.2%	△5.9pt	—
ROA	0.7%	△4.3%	△5.0pt	—
ROE	1.9%	△13.6%	△15.5pt	—
設備投資	95.5	56.2	△39.3	△41.2
減価償却費	64.9	71.9	7.0	10.8
研究開発費	42.8	41.6	△1.2	△3.0
平均為替レート USドル (円)	110.91	108.74	—	2.0%の円高
ユーロ (円)	128.41	120.82	—	5.9%の円高

● 2019年度実績（売上高 2018年度 vs 2019年度）

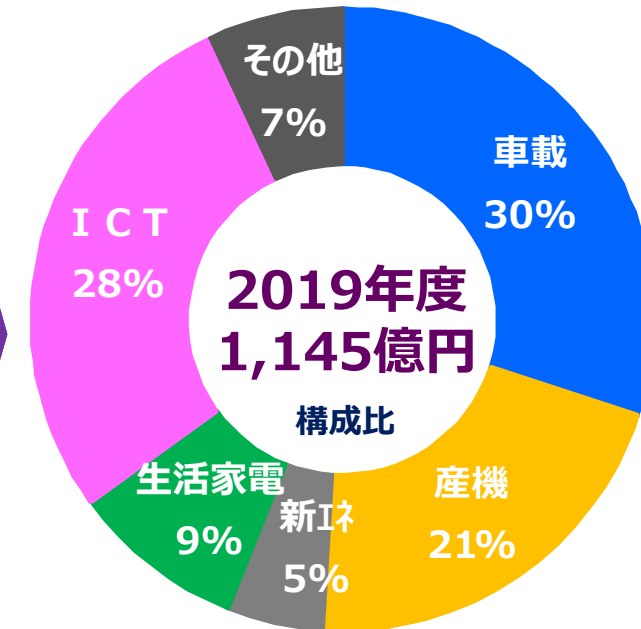
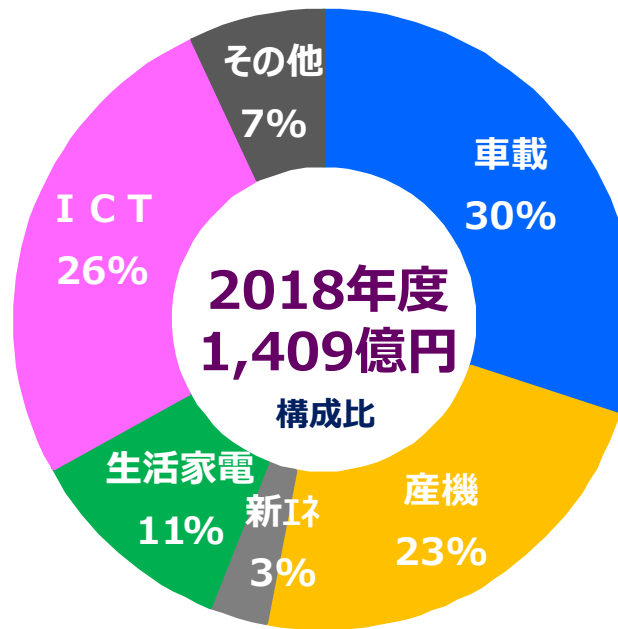
米中貿易摩擦の影響で産機市場中心にアルミ電解コンデンサ需要が大幅に減少

売上高：億円



↓ 産機市場：中華圏中心に設備投資低迷

↑ ICT市場：通信5G基地局の立上げとサーバー需要の回復



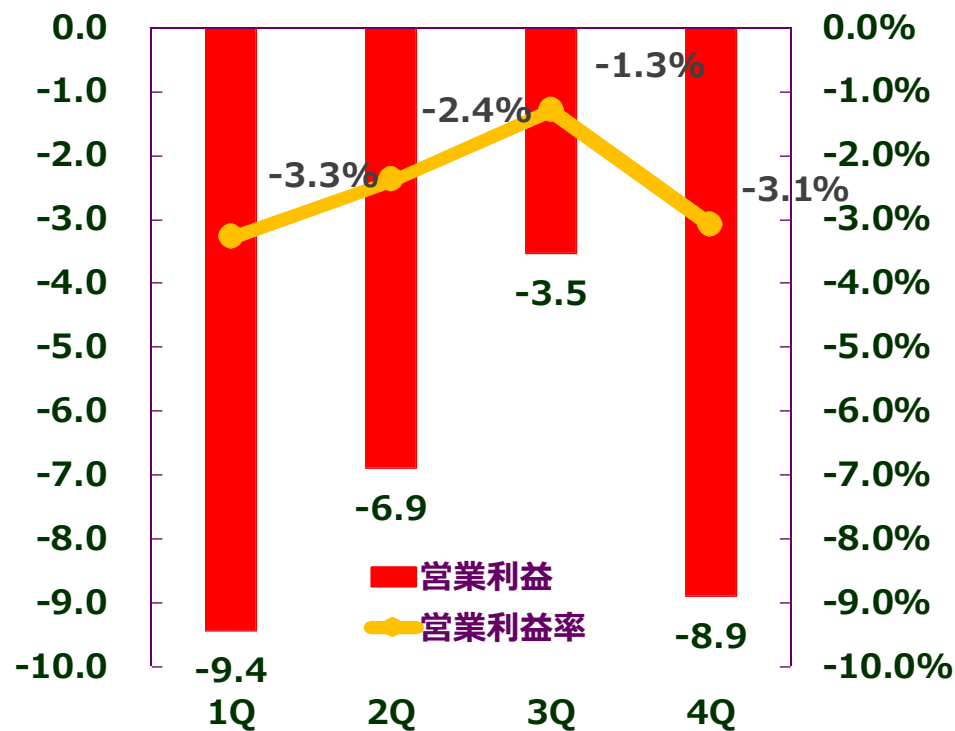
● 2019年度実績（営業利益 2018年度 vs 2019年度）

収益改善要因 ① 製造固定費の削減 ② コストダウン ③ 材料および電力価格の改善

収益悪化要因 ① 米中貿易摩擦による産機市場の需要減 ② 円高に推移 ③ 売価変動 ④ 新型コロナ

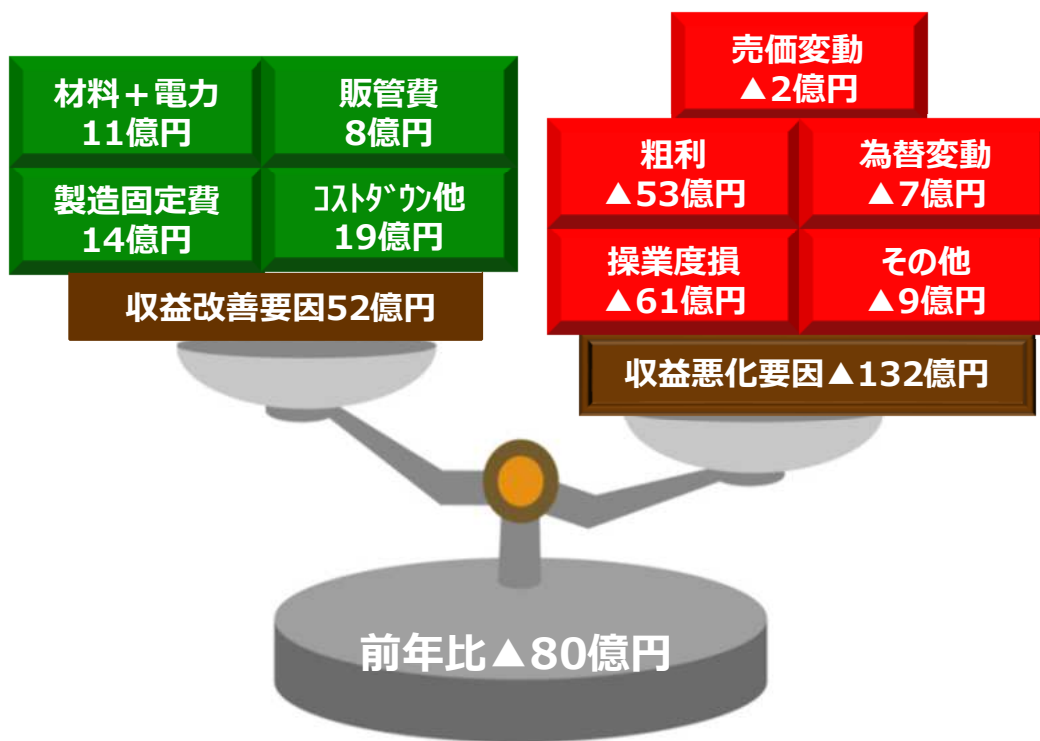
営業利益
億円

2019年度営業利益四半期推移



営業利益率

2019年度営業利益増減要因



● 2020年度業績見通し（新型コロナウイルスによる影響について）

業績見通しの前提条件

- 感染拡大は、第1四半期中に収束し、第2四半期より需要漸次回復
- 生産拠点は、2月ケミコン無錫、4月ケミコンレーザ停止したが挽回可能
- 今後、生産拠点の新たな生産停止は見込んでいない
- 中華圏・韓国は早期回復で5G・クラウド関連市場が旺盛に推移
- 産業機器・車載市場も第2四半期より一定程度正常化を織り込む

業績変動に対する機会とリスク

- (-) 感染収束時期の長期化と世界経済の悪化 ⇒ 需要が計画を下回る
- (-) 感染拡大による生産拠点の稼働停止 ⇒ 稼働率の低下
- (+) 感染の早期回復と各国政府による景気刺激策 ⇒ 需要増加

● 2020年度業績予想

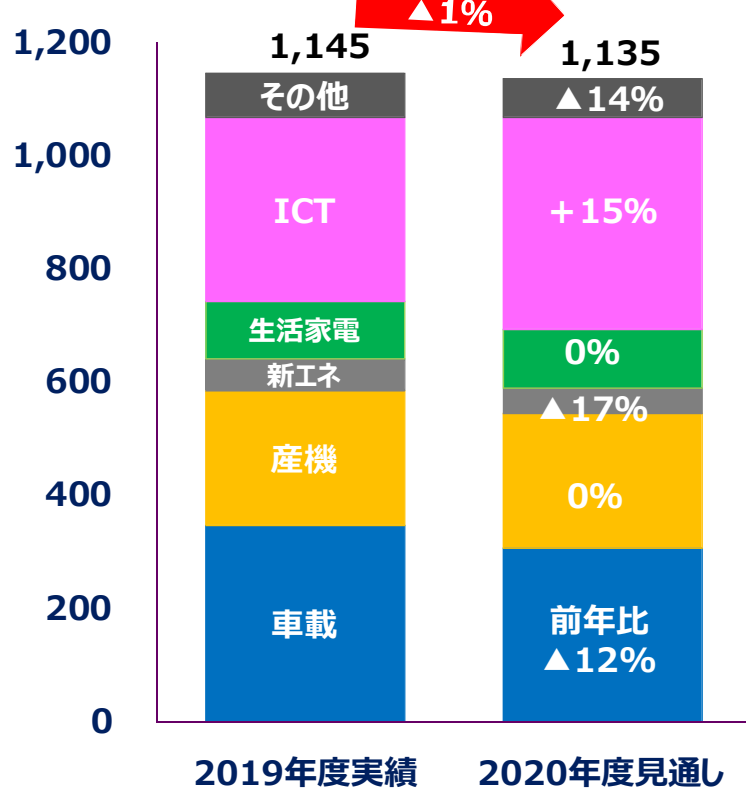
単位：億円

	2019年度実績	2020年度見通し	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	1,145.9	1,135.0	△10.9	△1.0
営業利益	△28.9	29.0	57.9	—
売上高比率	△2.5%	2.6%	5.1pt	—
親会社株主に帰属する当期利益	△59.2	14.0	73.2	—
売上高比率	△5.2%	1.2%	6.4pt	—
ROA	△4.3%	1.0%	5.3pt	—
ROE	△13.6%	3.5%	17.1pt	—
設備投資	56.2	65.0	8.8	15.7
減価償却費	71.9	56.6	△15.3	△21.4
研究開発費	41.6	41.0	△0.6	△1.5
平均為替レート USドル (円)	108.74	105.00	—	3.4%の円高
ユーロ (円)	120.82	116.00	—	4.0%の円高

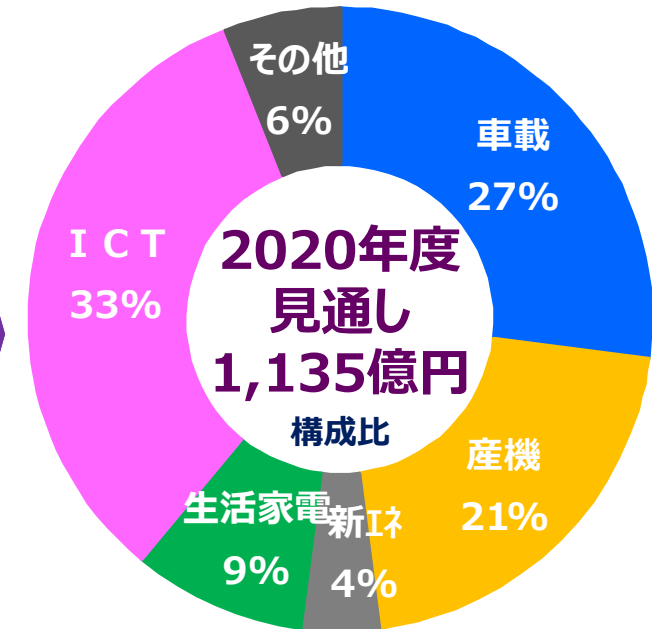
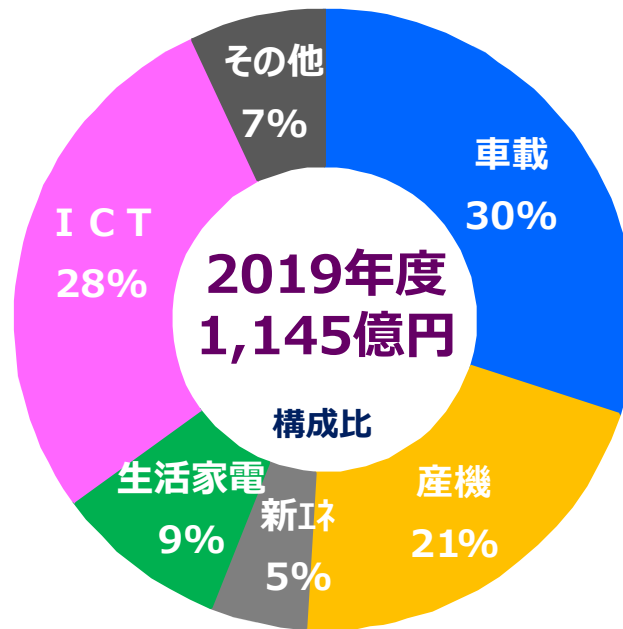
● 2020年度業績予想（売上高 2019年度 vs 2020年度）

新型コロナウイルスの影響で車載市場が苦戦する中、ICT市場はテレワーク化で需要増

売上高：億円



↓ 車載市場：新型コロナの影響で自動車需要の低迷
 ↑ ICT市場：通信5G基地局増とリモートワーク化によるPC需要増加



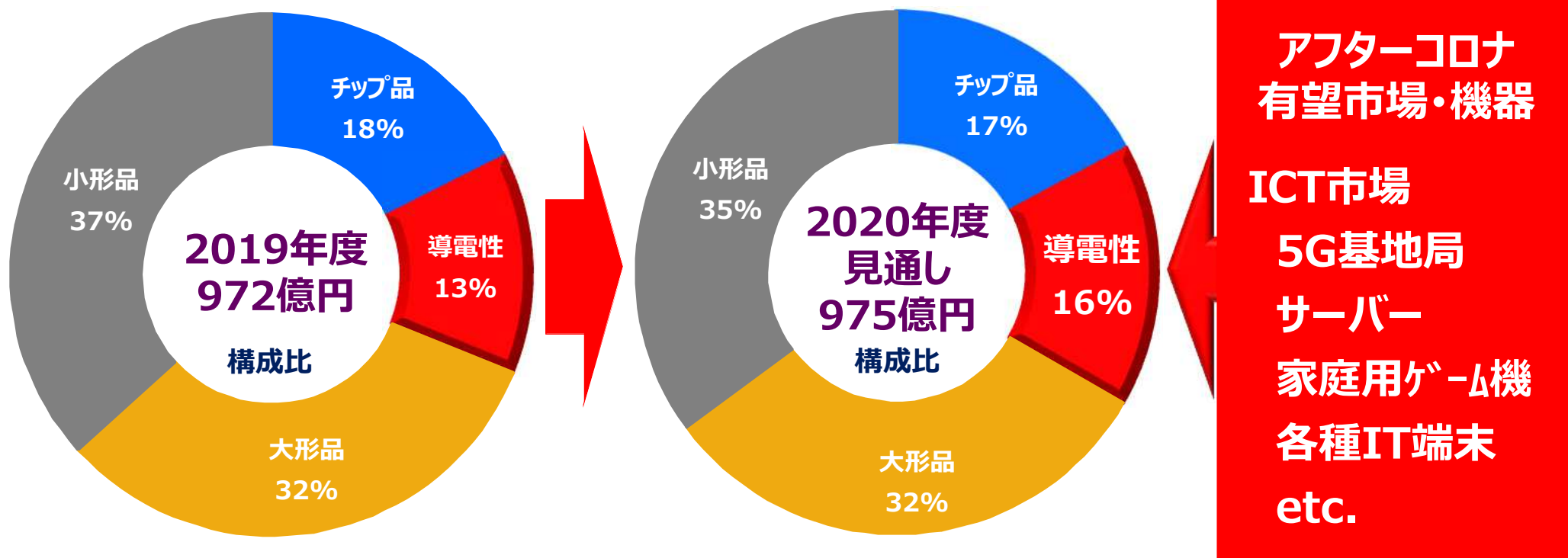
● 2020年度業績予想（製品別売上高）

アルミ導電性品はICT市場が牽引。その他製品は新型コロナ影響で車載市場を中心に減少。

製品	2019年度 実績(億円)	構成比	2020年度 見通し(億円)	構成比	増減額	伸張率	
アルミ電解	972	84.8%	975	86.0%	+3	+0.4%	→
内 導電性	130	11.4%	157	13.9%	+26	+20.2%	↗
DLCAP™	44	3.9%	34	3.0%	△10	△22.8%	↘
セラコン・バリスタ	29	2.5%	27	2.4%	△1	△6.6%	↘
機構	33	3.0%	29	2.6%	△4	△14.5%	↘
コンデンサ材料	44	3.9%	48	4.3%	+3	8.7%	↗
その他	21	1.9%	20	1.8%	△1	△6.0%	↘
合計	1,145	100.0%	1,135	100.0%	△10	△1.0%	↘

● 2020年度アルミ電解コンデンサ戦略（導電性比率向上による製品ミックス改善）

ICT市場向け導電性・ハイブリッドコンデンサ需要が拡大し、製品ミックスが大幅に改善する
～ アフターコロナを見据えた製品戦略（収束から経済再成長に向けて）～



今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

〔注意事項〕

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測につきましては、本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した予想であり、実際の業績は、今後、様々な要因により変動する可能性があることをご承知おき下さい。

また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承願います。投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。

本資料の内容に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承願います。